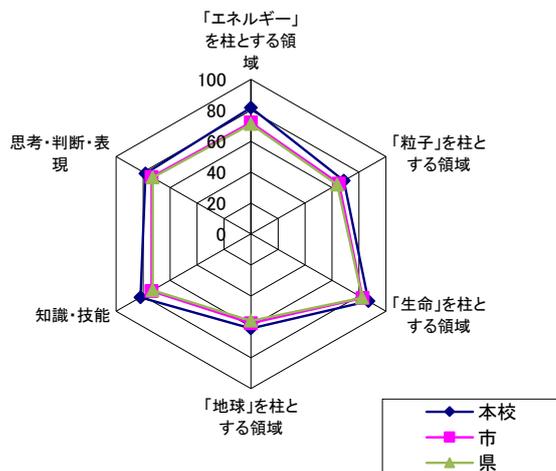


宇都宮市立東小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	81.7	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	68.8	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	87.0	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	61.1	57.7	56.2
観点	知識・技能	81.9	73.8	72.8
	思考・判断・表現	78.1	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均を10.7ポイント上回っている。</p> <p>○棒磁石の性質から、箱にタイヤを取り付けた車のおもちゃを動かすにはどちらの極を近づければよいかを推測する問題では、県の平均を19.1ポイント上回っている。</p> <p>●車が動いた距離から、送風機の風の強さを推測する問題では、県の平均を4ポイント下回っている。</p>	<p>・単元のはじまりや実験の導入時には、普段の生活や既習事項と関連付けて考えられるように、時間をとって予想や仮説を立ててから実験を行うようにしていく。</p> <p>・実験では、児童一人一人が関わり、理解が深められるようにしていく。また、ICTを積極的に活用し、風のはたらし等が視覚化された教材を多く用いることで、子供たちの理解の一助としていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均を4.9ポイント上回っている。</p> <p>○1枚の新聞紙の形を変えて測った重さが増えるのか否か、実験の結果を選択する問題の回答率は100%で、県の平均を13.3ポイント上回っている。</p> <p>●同じ体積でも、ものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考え、当てはまる言葉を記述する問題では、県の平均を3.6ポイント下回っている。</p>	<p>・材質による重さの違いについては、目に見えないためにイメージしにくく、理解することが困難であるため、実際に実験を行っていかなく、体感させていく。また、「イメージ図」や「モデル図」を使って考えたり、表したりして、児童が捉えやすいような授業づくりを行っていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均を4.6ポイント上回っている。</p> <p>○手に持ったタンポポを虫めがねで観察するときの、虫めがねの正しい使い方について選択する問題では、県の平均を16.1ポイント上回っている。</p> <p>●植物の育ち方についてまとめた記録から植物の一生について差異点や共通点を見いだせるかを問う問題では、県の平均を2.5ポイント下回っている。また、昆虫の体のつくりについて理解しているかどうかを問う問題では、県の平均を0.6ポイント下回っている。</p>	<p>・自然の生き物の観察では、実物を見たり、触ったりする活動が一番望ましいが、ICT等を活用した映像資料等を多く活用していく。その際、日常の経験や体験を想起させながら、様子や成長の違いを確認して観察するようにしていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均を4.9ポイント上回っている。</p> <p>○かげが太陽の反対側にできることや理解し、影の動きと結び付けられるかを問う問題では、県の平均を13.7ポイント上回っている。また、影と太陽の位置を調べ、太陽が動く方位を理解しているかどうかを問う問題では、県の平均を11.5ポイント上回っている。</p> <p>●方位磁針を使って太陽の位置を正しく調べている図を選択する問題では、県の平均を10.4ポイント下回っている。</p>	<p>・太陽とかげの動きについては、実際に屋上に行って観察する活動を行い、体験を通して理解できるようにしていく。また、ICT等を活用し、観察だけでなく、映像資料等を交えながら視覚的に学べるように工夫していく。</p>